

1. 会社概要

2. 事業内容 (運輸サービスセグメント)

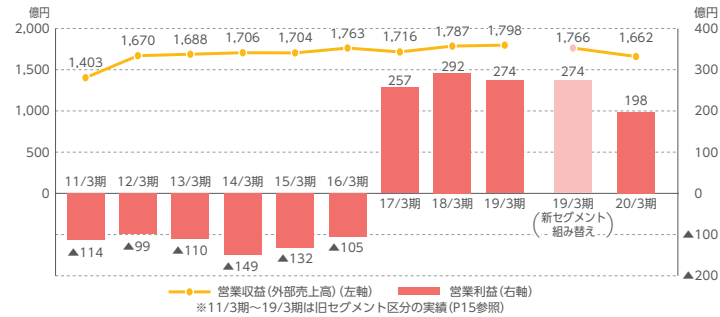
3. 事業内容 (不動産・ホテルセグメント)

4. 事業内容 (その他のセグメント)

5. データ

6. その他

運輸サービスセグメントの概要



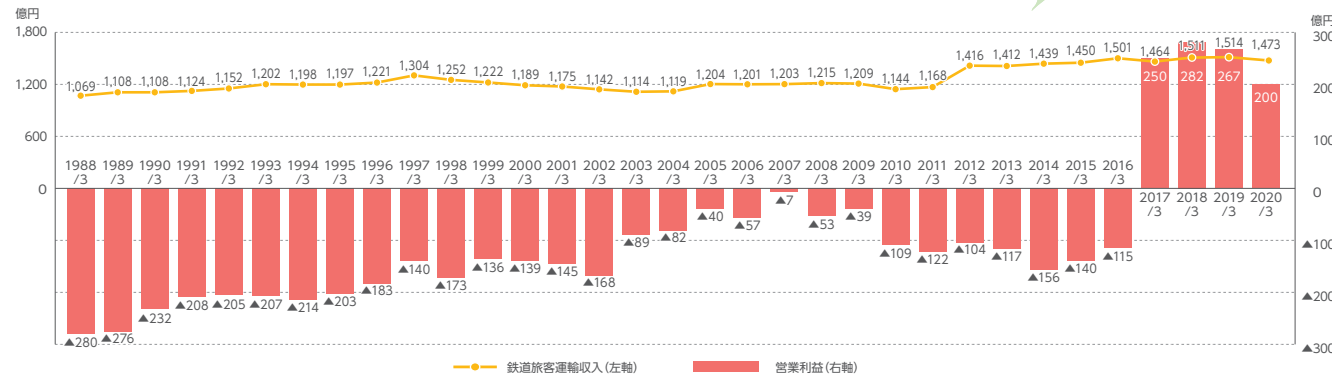
鉄道事業

路線概要 (2020年3月31日現在)

	線数	営業キロ(km)	駅数	電化率(%)
新幹線	1	288.9	4(11)	100
幹線	8	1,042.9	297	95
地方交通線	13	941.2	267	7
合計	22	2,273.0	568	59

※駅数中()内は新幹線と在来線の併設駅を含めた駅数

鉄道事業における鉄道旅客運輸収入 および営業利益の推移



バス事業



路線別便数(2020年6月1日現在)

路線名	便数	
	全便	(再掲) JR九州バス
一般		
一 直方線	139	139
一 穂野線	61	61
一 北薩線 ※	55	55
計	255	255
高		
福岡-宮崎線	56	8
福岡-鹿児島線	40	4
福岡-山口線	10	6
福岡-広島線(昼行)	18	6
福岡-広島線(夜行)	2	1
福岡-出雲線(夜行)	2	1
新八代-宮崎線	32	16
宮崎-大分線	12	2
計	172	44
合 計	427	299

※ 定期観光3便を含む

船舶事業



※運航休止中(2020年8月31日現在)

ターミナル
福岡(博多港国際ターミナル)
対馬(比田勝港国際ターミナル)
釜山(釜山港国際旅客ターミナル)

運航本数
福岡～釜山: 2～3往復/日
対馬～釜山: 1～2往復/日



豊肥本線の全線復旧

- 2016年4月 「平成28年熊本地震」で被災し、肥後大津駅～豊後荻駅間が不通
- 2016年7月 阿蘇駅～豊後荻駅間の運転再開
- 2020年8月 肥後大津駅～阿蘇駅間の運転再開(豊肥本線 熊本駅～大分駅間が全線で開通)



1. 会社概要

2. 事業内容 (運輸サービスセグメント)

3. 事業内容 (不動産・ホテルセグメント)

4. 事業内容 (その他のセグメント)

5. データ

6. その他

鉄道事業の状況

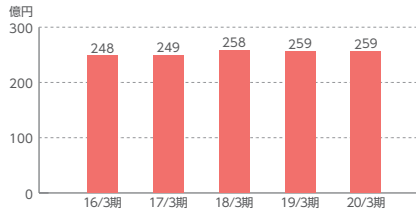
鉄道旅客運輸収入の推移

(単位:億円)

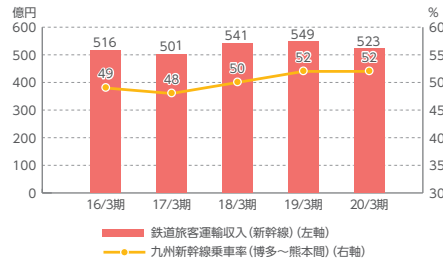
		2011 /3期	2012 /3期	2013 /3期	2014 /3期	2015 /3期	2016 /3期	2017 /3期	2018 /3期	2019 /3期	2020 /3期
新幹線	定期	8	20	23	24	25	26	26	26	27	28
	定期外	123	477	459	464	467	490	474	514	522	495
	計	131	498	482	489	493	516	501	541	549	523
在来線	定期	286	288	291	296	293	295	294	296	297	297
	定期外	750	630	637	654	663	688	668	673	668	652
	計	1,037	918	929	950	957	984	963	970	965	950
合 計	定期	294	309	314	320	319	322	321	323	324	325
	定期外	874	1,107	1,097	1,118	1,131	1,179	1,143	1,188	1,190	1,147
	計	1,168	1,416	1,412	1,439	1,450	1,501	1,464	1,511	1,514	1,473
指数(1988/3期=100)		109	132	132	135	136	140	137	141	142	138

鉄道旅客運輸収入(近距離※)

※50km以内



鉄道旅客運輸収入(新幹線) 九州新幹線乗車率(博多～熊本間)



車両数

車両別在籍車両数(2020年3月31日現在)

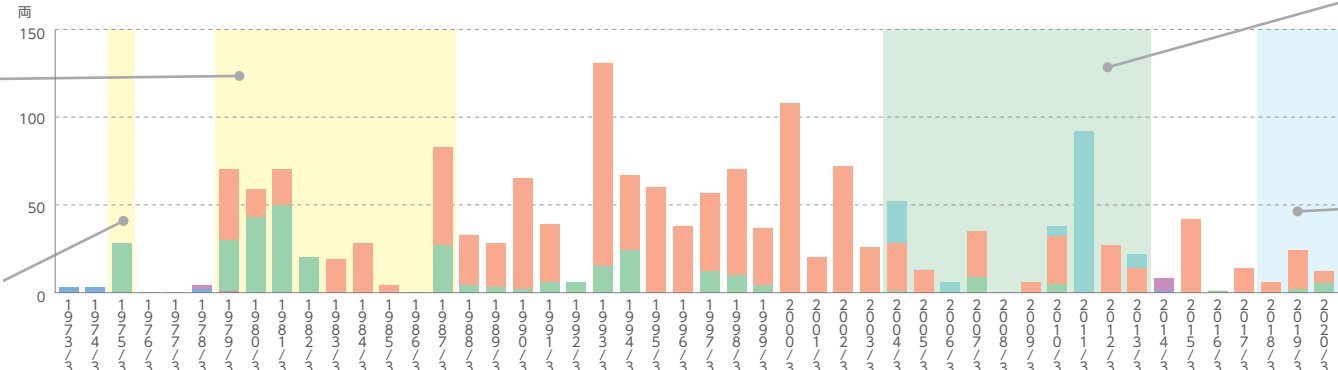
(単位:両)

車 両	SL 蒸気機関車	EL 電気機関車	DL 内燃機関車	TEC 新幹線	EC 電車	DC 気動車	PC 客車	その他	計
両 数	1	0	9	136	1,184	296	10	29	1,665

車両製造年度(2020年3月31日現在)

■ 内燃機関車 ■ 新幹線 ■ 電車 ■ 気動車 ■ 客車

※SL、その他の車両は除く



輸送データ

輸送人キロ

(単位:百万人キロ)

		2011 /3期	2012 /3期	2013 /3期	2014 /3期	2015 /3期	2016 /3期	2017 /3期	2018 /3期	2019 /3期	2020 /3期
新幹線	定 期	66	157	176	186	188	194	196	195	199	204
	定 期 外	423	1,666	1,605	1,639	1,674	1,735	1,655	1,809	1,832	1,745
	計	489	1,823	1,782	1,825	1,863	1,929	1,852	2,004	2,032	1,950
在来線	定 期	3,870	3,915	3,943	4,069	3,946	4,026	4,018	4,011	4,015	4,006
	定 期 外	3,714	3,149	3,198	3,287	3,329	3,421	3,320	3,319	3,237	3,102
	計	7,585	7,064	7,141	7,357	7,275	7,448	7,339	7,331	7,252	7,108
合 計	定 期	3,936	4,073	4,119	4,256	4,134	4,221	4,214	4,207	4,214	4,211
	定 期 外	4,137	4,815	4,804	4,926	5,003	5,156	4,976	5,129	5,070	4,847
	計	8,074	8,888	8,924	9,182	9,138	9,378	9,191	9,336	9,285	9,059

輸送人員

(単位:百万人)

		2011 /3期	2012 /3期	2013 /3期	2014 /3期	2015 /3期	2016 /3期	2017 /3期	2018 /3期	2019 /3期	2020 /3期
合 計	定 期	196	201	203	211	206	212	213	215	217	218
	定 期 外	101	108	110	112	113	118	118	121	121	118
	計	297	310	314	323	319	330	331	337	338	337
新幹線	定 期	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	定 期 外	3	9	9	10	10	10	10	11	11	11
	計	4	11	12	12	12	13	13	14	14	13

※新幹線の輸送人員は再掲

列車キロ、車両キロ

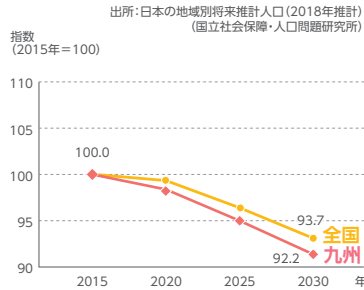
(単位:百万キロ)

		2011 /3期	2012 /3期	2013 /3期	2014 /3期	2015 /3期	2016 /3期	2017 /3期	2018 /3期	2019 /3期	2020 /3期
列車キロ	新 幹 線	3	9	10	10	10	10	9	9	9	9
	在 来 線	65	61	61	61	61	61	60	60	56	56
	計	69	71	71	72	71	71	69	69	65	65
車両キロ	新 幹 線	23	68	72	72	71	71	64	70	68	68
	在 来 線	271	248	248	250	250	250	247	243	230	231
	計	295	317	320	322	322	322	311	314	299	299

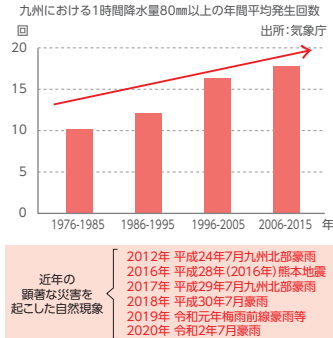
収支改善による持続的な鉄道サービスの構築について

背景

全国を上回るペースの九州の人口減少



増加する九州の自然災害



老朽設備への対応

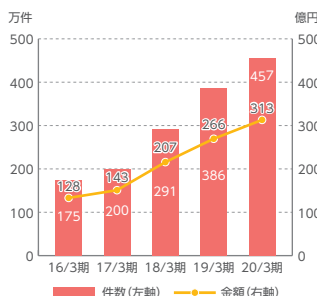


人口減少による市場縮小、少子高齢化による労働人口減少、自然災害の頻発・激甚化、老朽化する設備への対応に向けて、収益機会の追求、将来に向けた生産性の向上を図っていく。

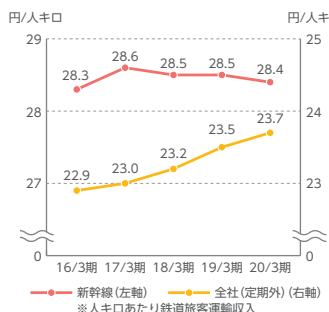
収益機会の追求

- インターネット予約システムの利便性向上によるネット販売比率アップ
- 近距離の収益力向上
- イールドマネジメントの強化
- 海外旅行代理店や航空会社と連携した「JR九州レールパス」の販路拡大
- D&S列車運行を通じた観光資源の発掘

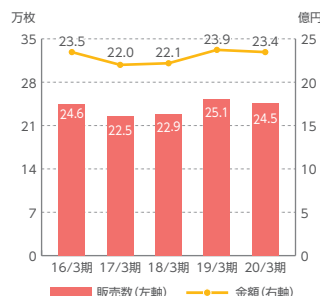
インターネット列車予約サービス予約件数、金額



イールド※(全社(定期外)、新幹線)



JR九州レールパス販売枚数、金額



生産性の向上

サービス

- Smart Support Stationの導入・拡大
駅に設置した監視カメラやインターホンを通じてサポートセンターのオペレーターがお客さまをご案内
- アシストマルスの導入
インターホンと遠隔操作機能を付加した券売機を通じて遠隔のオペレーターがお客さまをサポート

オペレーション

- 自動運転の実証実験
動力車操縦者が乗務しない形態の自動運転の実現に向けた実証実験を実施
- ワンマン運転の拡大
ホーム監視装置やホーム検知装置の導入により安全性を担保しながらワンマン運転を推進

メンテナンス

- ドローン・ロボットを活用した保守検査の検討
- 不要資産の計画的撤去
- 営業列車を活用した線路モニタリング
営業列車にモニタリング装置を搭載し検査を省力化

エネルギー

- 省エネ車両の開発および導入拡大
エネルギー効率の高い車両の導入により動力費・修繕費を削減
- 蓄電池技術の活用
回生電力の有効活用により電力使用量を削減

Smart Support Station

安全確認
ご案内

レール自動溶接機



新たなモビリティサービス (MaaS) への挑戦

シームレスなモビリティサービスの展開を見据えた業務連携および実証実験を計画

- 西日本鉄道(株)、第一交通産業(株)との業務連携契約締結
- トヨタ自動車(株)、西日本鉄道(株)とスマートフォン向けMaaSアプリ“my route”を本格実施(福岡市、北九州市)
- MaaSの実証実験の計画を発表
(大分県由布市および宮崎県宮崎市、日南市)
- 利便性の高い公共交通ネットワークの構築に向けて西日本鉄道(株)と列車、バス乗り継ぎ利便の向上を実施
(2020年3月のダイヤ改正より、下曽根駅で実施)

